

LPガス元売 入社4年目

今後の新入社員の必読書にふさわしい、というのが率直な感想です。また、エネルギー業界に興味のある就職活動中の学生は、間違いなくこの本を読むでしょうから、よりレベルの高い質問が会社セミナー等で行き交うだろう、とも感じました。

ガスの使用は生活の一部であるにも関わらず、LPGとLNGの違いを認識している人は少ないと思います。そんな人へも本書は基本的な違いから供給、用途、それぞれの今後の展望まで記されているためわかりやすく、ガス業界に身を置く方にも改めて業界を考えさせられる内容だと思います。

本書を拝読して私なりに感じた課題は三点です。

一点目は消費者のLPGへの認知度。記されていたとおり、プロパンガスに聞き覚えがある方は多いかと思いますが、都心部では（特に私の世代は）ガスに違いがあると思っていない人がいると感じています。東日本大震災時には復旧の早さが話題になりましたし、日本LPガス協会でもCMも作成していますが、では実際どのようなものであるか？決して理解しやすいものではありませんでした。どのように全国の消費者に知ってもらい、同時に利便性と安全性を訴えていけるか、多様化するエネルギーソースの中でLPGを選んでいただくために業界をあげて、もっとPRが必要であると考えます。

次に、品質の問題。本書には、LPGは、一般的な説明である「無色無臭」が記されていましたが、一般の一読者であればそのまま受け入れる箇所かと思っていますが、業界に身を置くものとして、読者が無臭LPG需要家になるかもしれない将来を考えると、「無臭」ではなく、LPGは少なからず臭いがあることを周知していく必要性を感じました。まずは我々元売り会社間での認識統一を踏まえ、需要家に認識していただけるよう説明していくべきです。

三点目は、本書に記されていた、石油元売りからの発想の転換。石油元売り関係会社であるために関する思いの強さはあると思いますが、商売の形態が違います。一般消費者の視点で考える、卸・小売り会社から学ぶことは我々元売りの将来へつながると感じています。石油元売り関係会社だからといって「石油ではこうだから」という言葉は通用しません。長い歴史の中で培われた知識・見解は大切だと思いますが、今までの常識を取り払った発想の転換が必要と考えます。

また、水素ステーションに関しては、ほぼ無知の状態の本を読んだため、例えばオフサイト型とオンサイト型の水素輸送の違いについては初めて知りました。元売りとして、燃料電池の拡販も推進していかなければならないため、このような燃料電池車・水素ステーションについては今後も継続して学んでいきたいと思いました。

一般の方の、身近な「なぜ？」という疑問も網羅している点、業界だけでなく社会に対する問題点も洗い出されており、ガス会社に勤めどうしても偏った視点で拝読してしまう私にとってもわかりやすいといった点で、勉強になる内容でした。

LPガス元売 入社3年目

LPガスのみならず、原油から水素といったエネルギーの情報、話題を網羅し、また、業界から政策まで幅広いトピックスがつながりを持った情報として題名どおりわかりやすく解説されており、大変勉強になった。

普段から、LPガス以外のエネルギーにも気をかけ、学ぼうとは思っているが、たまたま目に入った情報のみ頭に入れており、包括的に、ガスないしエネルギー全体を考える機会に乏しかったのではないかと、考えさせられた。

例えばLPガスの小売料金は高いと言われているが、原因のひとつとしてLPガスの輸入価格が他燃料に比べ乱高下しやすいことは業界人であれば誰もが知り得るところである。一方、ランニングコストは？タンク新設や造船コストは他燃料と比べて高いのか安いのか？といったことは今まで聞いたこともなければ、自ら調べようとすることもなかった。他燃料との競争が激化するなか、相手（他燃料）のコストを知らないようでは戦略的に戦うこともできず、規模縮小→固定費部分を賄えずあえなく値上げ→規模縮小といったデフレスパイラルに陥りかねない。もちろんこれは私だけに当てはまることかもしれないが、個人的には勉強不足に気づかされるいい機会となった。

他燃料との競争による規模縮小ではなく、人口減少による内需の低下はLPガス業界にとって最も大きな問題の一つである。内需産業であるエネルギー業界全体が抱えている問題ではあるが、LPガス業界を挙げて新たな需要の創設をしなければならない。私は業界として手にしている大きな機会が2つあると考えている。1つ目は燃料電池、2つ目は震災等の災害に強いLPガスというイメージである。燃料電池は本書に記載されているとおり処々問題はあるが、エネルギー効率の高さからECO商品として注目度が高まっている。2つ目は災害時に困っている人々の役に立ったという実績がある。災害などそもそも起こらないにこしたことはないが、いつなるとき起こるかわからない。実際やるのは難しいと言われるとは思いますが、このチャンスに一步でも二歩でも前に進むことが重要と考える。

最後にはなりますが、この本を読んで私自身、業界人として恥ずかしいほどエネルギー業界のことを知らないということがわかりました。必要だとわかりきったことだけでなく、少しでも関連することは主体的に学び、知見を拡げていきたいと強く感じました。

LPガス 元売 入社1年目

① この本を読んで初めて知ったこと

私は今年度新入社員として当社に入社し、一からガスエネルギー業界について勉強中の身でありますので、この本を読んで初めて知ったことは数多くありました。全部挙げればきりがないので、その中で特に印象に残ったことを2点ほど挙げさせていただきます。

1点目は、LNGタンクは比重が同じでなければならないという理由で、原則的に同じ産地のものしか受け入れられないということです。私たちの会社が海外や製油所から調達しているLPGを納入するタンクは、輸入船の荷揚げ毎に成分検査はするもののそのような制約が無く、どのようなタンクの実運用をLNG輸入基地が行っているのか大変気になりました。(もし、あるLNG産地からの輸入突然途絶えたり、急激に増えたりしたらどうするのか等)

2点目は、LPGには民間備蓄義務があるのにLNGには備蓄義務が無いことです。石油・LPGの備蓄義務が1973年の第一次オイルショックを背景に定められたのに対し、LNGは性質上長期間備蓄するのに向いていないことが理由の1つになっていることに大変驚きました。LPGの国家備蓄体制が完成したことで、日本LPガス協会は民間備蓄義務の低減を資源エネルギー庁に要望していますが、「旬刊セキツウ No2524」によると低減は認められないとのことで、今後も安定供給を前提とした備蓄義務のありかたについてより勉強する必要があると思いました。

② エネルギー業界人としての必須知識だと思ったこと

この本を読ませていただいて業界人としての必須知識だと思ったことは、環境負荷軽減に向けての再生可能エネルギーについてだと思います。なぜなら、エネルギーという視点からみれば、ガスも再生可能エネルギーも同じであると考えからです。本日、私も東京モーターショーでトヨタのFCV(燃料電池車)やHySUT(水素供給・利用技術研究組合)の水素ステーションのモデルを見学し、次世代のエネルギーの可能性について大変勉強になりました。ガス会社だからこそ、ガスエネルギー以外の太陽光や燃料電池などの再生可能エネルギーについて知っておくべきだと思いました。

③ エネルギー業界人として自分でやってみたいと思うこと

自分でやってみたいと思うことは、実際に輸入船に乗り産ガス国の積込みから家庭の配送先までの、LPガスの全流通に同行してみたいと思っております。

④ これだけの本ならこの内容もあった方がいいと思うこと

用語を調べられる索引が最後にあると、振り返りが出来て勉強になると思いました。